

デジタル田園都市国家構想交付金事業の 効果検証結果について

令和7年8月21日

令和7年度 第2回荒尾市総合計画審議会

<デジタル田園都市国家構想交付金>

デジタルの活用などによる観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する取組や拠点施設の整備などを支援するもの。

本交付金を活用している事業については、毎年度、総合計画審議会において事業の効果検証を行うこととしている。

今年度効果検証

地方創生
推進タイプ

- 先進技術とデジタルを活用しEBPMによる疾病予防・健康行動促進・地域医療の質向上・効率的な見守りを促す誰もが安心して長生きできるウェルネスマートタウン事業（期間：R6-R8 総事業費：396,865千円）
- 自治体オリジナルメディアにおける地域ブランド創出事業（期間：R6-R8 総事業費：30,000千円）

今年度効果検証

地方創生
拠点整備タイプ

- 荒尾市ウェルネス拠点施設を中心とした地域経済活性化プロジェクト（期間：R5-R8 総事業費：638,189千円）

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業

先進技術とデジタルを活用したEBPMによる疾病予防・健康行動促進・地域医療の質向上・効率的な見守りを促す誰もが安心して長生きできるウェルネスマートタウン事業（期間：R6～R8）
(担当 スマートシティ推進室) R6総事業費：130,158千円

事業の目的・内容

本市の高齢化率は36%超と全国平均よりも高齢化が進んでおり、生活習慣に起因する疾患により医療給付費が全国平均や熊本県平均よりも大幅に高い状況である。これらの課題を解決するため、先進技術やデジタル技術を活用して、市民に健康への気付きを与え健康的な生活習慣への行動変容を促し、地域医療の最適化により市民の健康寿命の延伸と健康格差の解消を実現し、ウェルビーイングの向上を目指す。

①AI健診結果予測シミュレーション

特定健診の受診率向上を目的に、生活習慣病の発症リスクが分かるシートの案内を健診対象者へ送付。健診受診者には、情報提供シートを送付し、約9割が生活習慣改善意欲の向上に繋がると回答。

【R6の取組】

- ・将来予測・生活習慣改善アドバイスシート（対象者：6,652名）
- ・情報提供シートを送付（対象者：2,290名）



②疾患発症リスク検査・介入サービス

国民健康保険加入者で、健診結果に基づき、国や市の保健指導に該当する人を対象に、疾患発症リスク予測検査を実施。

【R6の取組】

222名に検査を実施し、うち220名が生活習慣改善を継続中。コンシェルジュ（保健師）面談を2回実施したところ、約99%が面談を行っている。



③健康増進サービス

ハイリスク（疾病発症リスクが高い）アプローチ、ポピュレーション（無関心層を含む全市民）アプローチを実施し、疾患予防・健康づくりの取組を実施。また、ウェルネス拠点施設の開設に向けた、新健康増進を検討する。

【R6の取組】

- ・食事の写真を撮るとカロリー・栄養素等をAIが分析して、食事・運動のアドバイスを行うアプリの機能改善等を図ったほか、市内3事業所からクーポン提供の協力を得た。

④デジタル健康手帳

生活習慣の改善を図るためのツールとして、通院履歴や薬の記録、血圧や体温、歩数といった日々の健康状態を記録できるデジタル健康手帳サービスを実施。

【R6の取組】

- ・2025年1月から、WEB版にかわるスマホ版のデジタル健康手帳アプリを開始した。
- ・住民活用促進、介護・医療機関連携、母子連携、保健指導活用等の取り組みを実施し、他分野との連携・活用拡大を図った。

⑤EBPM

①から④までの事業のデータや健診結果、レセプトデータをもとに、事業の成果を定量化し、改善につなげる。

【R6の取組】

- ・第3期データヘルス計画をもとに、医療費・介護費をインパクトとしたロジックモデルを作成し、インパクト評価のための指標を整理した。
- ・熊本大学と共同研究契約を締結し、②の評価を実施した。

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業

先進技術とデジタルを活用したEBPMによる疾病予防・健康行動促進・地域医療の質向上・効率的な見守りを促す誰もが安心して長生きできるウェルネスマートタウン事業（期間：R6～R8）
(担当 スマートシティ推進室)

KPI(重要業績評価指標)

	KPI名称	事業開始前 (現時点)	R6	R6増加目標	R6増加実績	R7	R7増加目標	R7増加実績	R8	R8増加目標	R8増加実績
KPI1	地域へのUIJターン者数(あらお海陽スマートタウンへの移住者数)(人)	0	118	60	118		60			60	
KPI2	平均自立期間(日常生活動作が自立している期間の平均)(年)	81.65	81.55	0.10	-0.10		0.10			0.10	
KPI3	健康行動を継続的に実行している市民の割合(%)	48.9	51.2	2.00	2.30		2.00			2.00	
KPI4	毎年、健康診断や人間ドックを受診している市民の割合(%)	72	67.7	1.00	-4.30		1.00			1.00	

KPI(重要業績評価指標)の考察と今後の改善方針

R6年度は上記に定めたKPI指標のうち、2つは目標値を達成しているため一定の成果は表れていると考えられる。

本市は、特定健康診査の受診率が低く市民の健康意識が低い状態であるため、市民への強い気づきを与えるきっかけづくり等が必要であるが、前ページにある『① AI健診結果予測シミュレーション・②疾患発症リスク検査・介入サービス』のR6取組について約9割が生活習慣改善意欲の向上に繋がる、本サービスについて満足したと、回答している。また、②についてはR4から実施しており、特に継続して検査を受診されている方については、検査結果で健康状態の改善が大幅に向上（改善値：20年認知症 +12.6%、循環器疾患：+22.5%、肺がん +5.9%）するなど、本事業は医療費の適正化に一定の寄与は果たしていると考えられる。また、⑤EBPMについては、医療費・介護費をインパクトとしたロジックモデルを作成したところ、保健指導前に必要な情報をまとめて可視化することで年間566.8時間程度の業務効率化が見込めたことから、情報集積の処理化に取り組むなど行政事務の適正化・効率化にも繋がっている。

本事業においては、熊本大学生命科学部研究部、NECソリューションイノベータ、フォーネスライフ、荒尾市医師会、有明医療センター及び本市の6者で連携協定と、本市の取組の成果を観察研究する共同研究契約を締結するなどして、すでに評価・改善機能を確立している。令和7年度の取組方針として、サービス認知度向上のPR、保健事業でのサービス活用シーンの確立、既存事業・新サービスの効果測定を予定しており、前述のとおり熊本大学による成果報告を踏まえつつ、一つひとつ各事業を遂行し、サービス全体の改善を図っていく。

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業

自治体オリジナルメディアにおける地域ブランド創出事業（期間：R6～R8）

（担当 総合政策課）

R6総事業費：10,000千円

事業の目的・内容

本市における出生数の減少と女性の転出超過が著しい状況の中、令和5年度に着任した地域活性化起業人の発案により、市公式メディア「ぎゃんすき！あらおちゃん」を設立。本事業は、将来的な定住・Uターンの促進のため、特に若年層をターゲットにした情報発信と交流機会の創出による本市への愛着醸成を目的とする。起業人と地域おこし協力隊が連携して、SNS等の情報発信基盤の整備とクオリティの高いコンテンツ制作、イベントの企画・開催による若者の居場所づくりを行い、メディアの認知度向上を図ると共に、交流を起因としたコミュニティ創出を目指すものである。

コンテンツ力強化とオンライン拠点整備（情報発信力強化）

【趣旨・目的】

SNSの種類増加と情報拠点となるウェブサイトを整備し、子育て支援情報、地域・観光情報だけでなく、市民や本市にゆかりのある人物など「ヒト」にスポットを当てつつ、本市の様々な魅力を「エンタメ性」をもって発信。プロのクリエイター等の協力を得て、動画のクオリティを上げつつ、動画編集に携わる協力隊の能力向上も図る。

【R6の取組】

専用ウェブサイトの構築とSNS追加により発信媒体を増やし、より多くの人に情報を届ける体制を構築。地元の魅力の深化とエンタメ性をもった動画投稿によりフォロワー数が増加した。また、本市出身の有働佳史監督やプロの脚本家へ動画作成の企画・編集へ指導・助言をもらい、動画の質と作成に携わる協力隊の作業の効率化の向上を図った。

R7.3月時点でInstagramのフォロワーは9,574人となった。



イベントの開催による交流人口の創出

【趣旨・目的】

オフライン・オンラインの両方のイベント開催により、若年層の交流機会の創出とメディアの認知度向上を目的とする。また、イベント事業を通じた収益化についても検討する。

【R6の取組】

定期的な干潟音楽イベントやシティモール等と協力したイベントを開催すると共に、SNSのオンラインライブを実施し、来場者は計4,500人以上となった。



コミュニティ構築とスポンサー獲得

【趣旨・目的】

SNS視聴やイベント参加を通して、メディアの協力者や支援者を募り、将来的には独自のコミュニティ形成と事業の自立化を目的として、若者の出会いの場や気軽に集える居場所と機能し、若年世代の将来的な定住促進を図る。

【R6の取組】

イベント開催に当たってはボランティアを募り、市内外の高校生、大学生を始め、多くの若年層の協力を得た。また、試験的にイベント開催に当たってスポンサー募集と出店料徴収を試験的に実施した。



デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業

自治体オリジナルメディアにおける地域ブランド創出事業（期間：R6～R8）
(担当 総合政策課)

KPI(重要業績評価指標)

	KPI名称	事業開始前 (現時点)	R6	R6増加目標	R6増加実績	R7	R7増加目標	R7増加実績	R8	R8増加目標	R8増加実績
KPI1	総人口の減少値(人)	-600	48,394	50	-527		50			50	
KPI2	20代の転入出者数の減少値(人)	-150	-251	10	-101		10			10	
KPI3	事業を通じた関係人口数(イベント参加者・イベント協力者)(人)	0	2,600	200	4,689		500			1,000	
KPI4	コンテンツリーチ数(人)	100,000	320,032	200,000	211,694		250,000			300,000	

KPI(重要業績評価指標)の考察と今後の改善方針

「事業を通じた関係人口数」については、SNSのライブや市内事業者等と協力したオンラインイベントの企画・開催により、目標の200人に対し実績が4,500人以上であり、想定を大きく上回る来場者を獲得すると共に、開催に当たってはボランティアとして多くの若年世代の協力者を得られた。

また、「コンテンツリーチ数」についても、前年度比プラス20万に対し実績が約21.1人と目標を達成し、本KPIの目標数値ではないが、Instagramのフォロワーについても、R7.3月時点で9,500人を上回っている。SNSやウェブサイトの情報発信基盤の整備とプロのクリエイターによる技術指導、子育て支援情報、地元高校生と連携した動画作成など、若年世代向けを意識したエンタメ性をもった情報発信がKPIの達成に寄与したと考えている。

しかし、「総人口の減少値」と「20代の転入出者数の減少値」については、R6目標である50と10に対し、実績は▲527と▲101であり、人口増加や20代の転出抑制に対して、明らかに目に見えた結果には至らなかった。

今後は、メディアの視聴者数及び視聴数のさらなる獲得のため、より一層、地元の内容にこだわったコンテンツ作りを進めると共に、プロの指導を受けながらクオリティと情報発信に関する効率化の向上に努める。また、イベント実施による交流人口拡大を継続すると共に、今後は継続的な事業への協力者の獲得をはかるため、コミュニティ形成と事業の自立化を図るためのスポンサー獲得を意識した事業を検討する。

これらの事業実施により、今回未達成のKPIの目標達成を意識した事業展開を進め、将来的な定住促進を目指す。

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）事業

荒尾市ウェルネス拠点施設を中心とした地域経済活性化プロジェクト（期間：R5～R8）

（担当 産業振興課）

R6総事業費：308,630千円

事業の内容

ウェルネス拠点施設は、地域交流施設と保健・福祉・子育て支援施設及び大屋根広場の複合施設として整備するもの。

そのうち、地域交流施設については、物販・飲食施設における地場産品の販売等を通して生産者等の所得向上、地産地消の促進による地域内経済の循環の推進、保健・福祉・子育て支援施設との連携による健康増進や子育て支援機能、広域も視野にいれた防災拠点機能、南新地地区に立地する周辺施設との連携により新たな価値を創造する機能など、あらゆる施策や取組を推進する施設として整備する。

荒尾市ウェルネス拠点施設 実施（詳細）設計及び建設工事

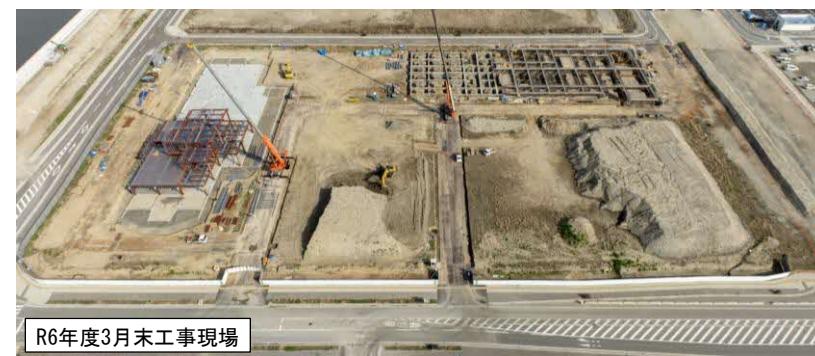
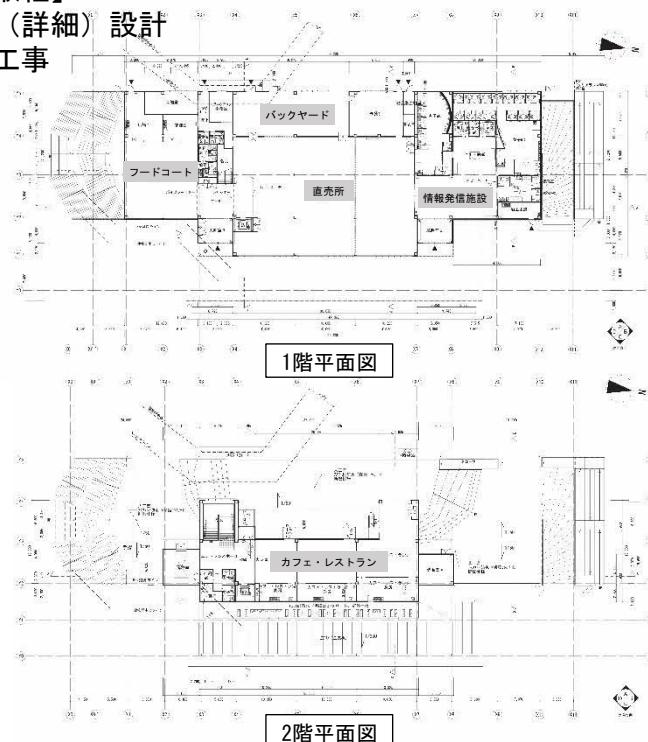
【目的】

事業全体としてPFI（BT0）方式を採用しており、実施（詳細）設計及び建設工事を実施。

R5年度の基本設計をもとに、実施（詳細）設計の作成をし、同年建設工事に着手。建設工事についてはR7年度も継続して行い、R8年6月の開業を目指している。

【R6の取組】

- ・実施（詳細）設計
- ・建設工事



デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）事業

荒尾市ウェルネス拠点施設を中心とした地域経済活性化プロジェクト（期間：R5～R8）
 (担当 産業振興課)

KPI(重要業績評価指標)

	KPI名称	事業開始前 (現時点)	R5	R5増加目標	R5増加実績	R6	R6増加目標	R6増加実績	R7	R7増加目標	R7増加実績
KPI1	物販施設における年間売上(円)	0	0	0	0	0	0	0			0
KPI2	物販施設におけるレジ通過者数(人)	0	0	0	0	0	0	0			0
KPI3	物販施設への出荷者数(実人数(人))	0	0	0	0	0	0	0			0
KPI4	当該施設の整備を機に新規に就農漁業や起業をする者の数(人)	0	0	0	0	2	1	2			1

	KPI名称	R8	R8増加目標	R8増加実績	R9	R9増加目標	R9増加実績
KPI1	物販施設における年間売上(円)		413,000,000			80,000,000	
KPI2	物販施設におけるレジ通過者数(人)		310,000			70,000	
KPI3	物販施設への出荷者数(実人数(人))		150			20	
KPI4	当該施設の整備を機に新規に就農漁業や起業をする者の数(人)		1			2	

KPI(重要業績評価指標)の考察と今後の改善方針

R8年6月のオープンを目指し、R6年度は実施（詳細）設計及び建設工事を行った。R7年度は残りの建設工事を実施していく。
 KPI4の新規就農漁業者数を目標数1に対し2の実績となり、施設の整備効果があることがわかる。
 R6年度は、オフラインでの出荷・出店等意見交換会や、出荷者への説明会をR7年3月に行い、継続して出荷者等の申し込みを募った。今後も施設整備と並行して、出荷者・新規企業者の募集を行っていく。